

環境分野における
「今後さらに取り組むべき課題」について

平成26年2月28日
環境ワーキンググループ事務局

今後さらに取り組むべき課題について（背景）

- 2月14日の第117回総合科学技術会議本会議で科学技術イノベーション総合戦略の改定に向けた検討について、現在、総合戦略が取り組むべきとして掲げる5つの政策課題のほかに、ICT・ナノテクノロジー・環境技術などの分野横断技術の深堀を強力に進める必要があると明記された。（有識者議員ペーパー：参考資料3）
- 本会議の安倍総理のご挨拶において、「2020年の東京オリンピック・パラリンピックを機会に、日本発のイノベーションを世界に発信するためにも日本独自のイノベーションの種を育むことが大切であり、我が国が直面する重要課題の解決に向けた取り組みをまとめて総合戦略の改定に盛り込んでいただきたい。」とご発言された。

（URL：http://www.kantei.go.jp/jp/96_abe/actions/201402/14kagaku_kaigi.html）

- 以上を受けて、総合科学技術会議 重要課題専門調査会 公開ワークショップ（3月10日実施）にて、総合戦略改定への論点整理として、以下の3点を中心に議論を実施する予定

- ・課題間にまたがる融合領域的課題（科学技術イノベーション総合戦略における5つの政策課題間の課題）
- ・各課題に共通基盤的に適用される分野横断技術（ICT・ナノテクノロジー・環境技術）
- ・2020年東京オリンピック・パラリンピックまでに加速すべき課題（プロジェクトテーマ）



本日、以下の観点から議論を実施

- ・各課題に共通基盤的に適用される分野横断技術
- ・2020年東京オリンピック・パラリンピックまでに加速すべき課題

今後さらに取り組むべき課題について（参考）

安倍総理本会議ご発言より（一部抜粋） http://www.kantei.go.jp/jp/96_abe/actions/201402/14kagaku_kaigi.html

2020年の東京オリンピック・パラリンピックについて、一部議員からもお話がありましたが、先般、ソチオリンピックの開会式にも行って来たわけですが、まさに**オリンピックというのは、その国の技術、文化、すべての粋を世界へ向かって発信していく場にもなっている**わけでありまして、そのことを改めて実感をした次第でございます。そういう意味からも**2020年東京オリンピック・パラリンピックを機会に、日本発のイノベーションを世界に発信していきたい**と思います。そのためにも**日本独自のイノベーションの種を育てていくことが大切だろう**と思います。そして**我が国が直面する重要課題の解決に向けた取組をまとめまして、それを総合戦略の改定に盛り込んでいただきたい**と思います。

有識者議員ペーパー（参考資料3）より抜粋

1. 課題解決を図り市場を掘り起こすための3つの視点

(2) 分野横断技術の深掘り

現在、総合戦略が取り組むべきとして掲げる5つの政策課題に資源配分を重点化しているが、ビッグデータ解析・ロボット・制御システム技術などの**ICT**、デバイス・センサーや新たな機能を有する先進材料を開発するための**ナノテクノロジー、環境対策技術など、各課題に共通基盤的に適用されていく分野横断技術**の重要性については明言されていない。これらの分野横断技術は、これまで日本が強みとしていた領域であり、また5つの政策課題に対して日本独自のイノベーションを創造するための基盤技術であることから、産業競争力強化において将来的にも大きなアドバンテージを生み出す源泉となる。

したがって、**分野横断技術は課題解決に向けた利活用の強化・加速化のみに目を向けるのではなく、技術そのものの深掘りを強力に進める**必要がある。

(3) 2020年東京オリンピック・パラリンピックの機会活用

上記の視点を具体的に展開していくためには、現実的なターゲットを見定めて研究開発成果を産業化していくことが必要であり、**2020年東京オリンピック・パラリンピックの機会を有効活用**することを考えるべきである。したがって、この機会を最大限に活用するため、**現在の工程表を見直し、政策課題解決に向けた取組の加速化を行うとともに世界の英知も引き寄せつつ日本発のイノベーションを誇示する場としていく**べきである。